

水発電の美を探る、実験的アートピース ephemeral

Experimental Art Piece Searching For The Beauty In Water Power Generation

古瀬 響

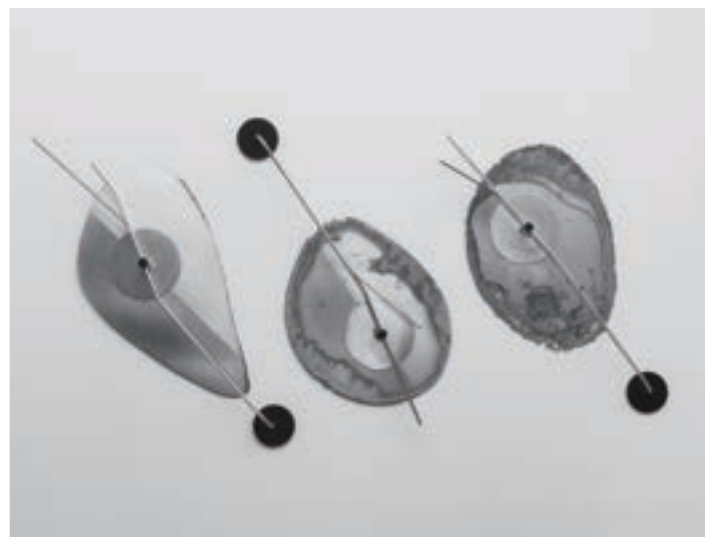
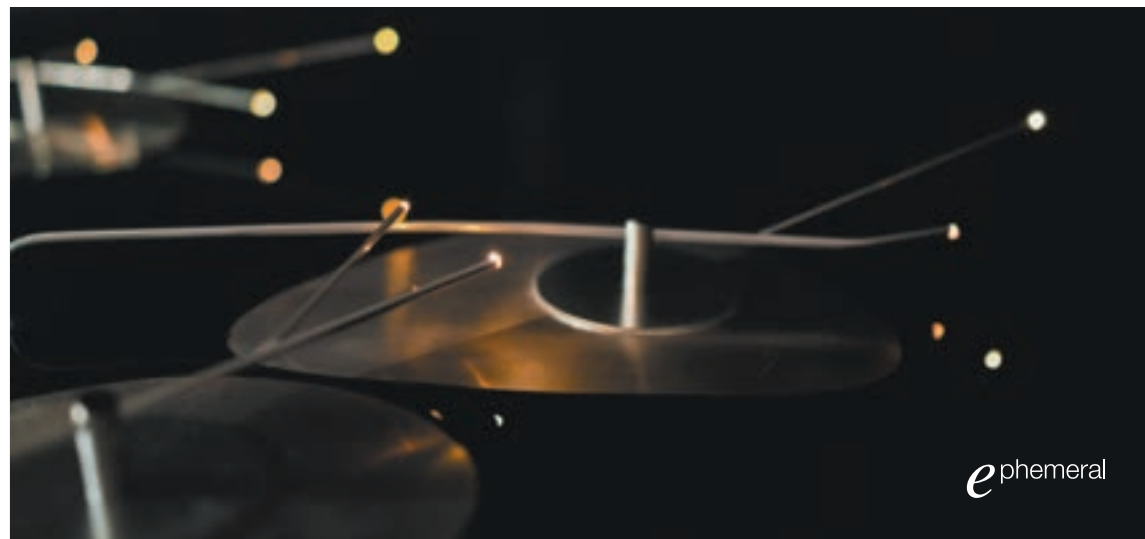


発電という物語を体験する

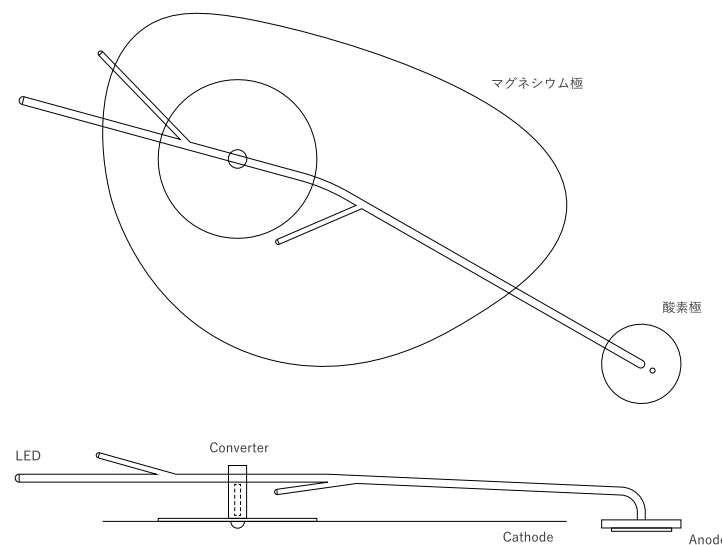
水に触れることで電気が生まれる。水発電の中には、無数の電子たちが行き交い、出会い、電極が反応して変化し、マイクロで壮大な物語が存在する。そんな「発電の物語」をヒューマンスケールの体験に置き換えることで、発電に対する人々の意識を変えられると考えた。

Exploring the Story of Power Generation

Contact is made with water and electricity is born. Countless electrons come and go, attract and repel, creating a story like no other at a micro scale. By bringing this 'story of electricity generation' into a human-scale experience, a renewed perspective on how electricity production can come about.



マグネシウムと酸素を反応させて発電する水発電。そのプロモーションとして、水発電技術をわかりやすく美しく体験できるアート作品を制作した。
水たまりにそっと浮かべると、マグネシウムが溶けながら光る。何日もかけて朽ちていき発電を可視化することができる。



水たまりに浮かぶ木の葉をイメージして、発電体をデザインした。酸素を送り込む酸素極、板状のマグネシウム極を同一の電解液につけると発電が始まる仕組み。
葉っぱを浮かべると光りだし、漂い、溶けて朽ちていく。長く儚い発電の物語を人々に体験させ、電気を作ることの素晴らしさを感じてもらいたい。